

1 「県立高等学校振興再編計画」の策定（令和7年3月）

計画期間：令和7年度～14年度

① 県立高校を5つのグループに分類し、**学校規模の目安・再編等の基準を設定**

A 高知市・南国市の学校 (7校)	【学校規模】1学年4～6学級 ※ 入学者数が3年連続4学級未満となった場合、再編を進める
B 地域の拠点校 (4校)	【学校規模】1学年4学級以上 ※ 入学者数が3年連続4学級未満となった場合、グループCに位置付け
C 中山間地域等の小規模校 (13校)	【最低規模】<本校> 1学年1学級20人以上 <分校> 1学年1学級10人以上
D 産業系の専門高校 (7校)	【学校規模】1学年2～6学級 ※ 各学科・専攻の入学者数が3年連続で入学定員の3分の1未満となった場合、学科等の再編を進める
E 定時制・通信制の学校 (12校)	【最低規模】<定時制昼間部> 1学年1学級20人以上 <定時制夜間部> 全学年の生徒数20人以上 ※ 入学者数や今後の見込みが最低規模の目安を下回る場合、再編を進める

② **学校のさらなる魅力化・特色化を推進**

- 自然や特色ある文化など地域資源を生かした教育活動
- 全国からの生徒募集の拡充

③ **地域や学校の枠組みを超えた協働的な学習の充実**

- 遠隔教育の拡充、グローバル教育の推進

④ **定時制・通信制の再編**

- 定時制夜間課程の再編、通信制の協力校の設置

⑤ **多様な学びのニーズに対応した学校・コースの設置の検討**

- 3課程（全日制・定時制・通信制）併置校
- 日本語指導の必要な生徒を対象としたコース
- 特色ある学科等の新設

⑥ **入試制度・入学定員の見直し**

- 学校の特色に応じた入試制度
- R14までに、全日制の入学定員を1200人以上減

◆ 今後、想定される新たな動き

国が示す高校教育改革に関する基本方針「**高校教育改革に関するグランドデザイン（仮称）**」を踏まえ、

都道府県ごとに**高校教育改革実行計画（仮称）**を作成・実行

（R7.6.11「三党合意に基づくいわゆる高校無償化に関する論点の大枠整理」より）

＜グランドデザインの内容として想定されること（一部）＞

- 施設の老朽化対策等の教育環境の整備に関する交付金等の新たな財政支援
- 探究・文理横断・実践的な学びの充実、グローバル人材やDX・AI・半導体・コンテンツ産業等の人材育成、産業界の伴走支援による専門高校の機能強化・高度化、普通科改革等を通じた高校の特色化・魅力化を図るための支援



令和8年度に、「**県立高等学校振興再編計画**」（R7.3策定）の改訂

又は **グランドデザインに対応した実行計画の策定** の可能性

2 学校のさらなる魅力化・特色化を推進

中山間地域等の小規模校 (グループC) 13校

(室戸、城山、嶺北、吾北分校、高岡、佐川、窪川、檍原、四万十、大方、西土佐分校、宿毛、清水)

- ① 地域コンソーシアムの構築
② アクションプランの策定・実行

生徒数確保に向けて
市町村とともに
全力で取組を推進

地域の核となる学校として地域との連携強化及び特色化



努力目標 入学者数 【本校】1学年：41人以上（2学級規模） ※四万十高校：25人以上、宿毛高校：81人以上
【分校】1学年：11人以上

◆ 進捗状況と主な取組

	1 学校の魅力化・特色化	2 地元中学校からの進学率の向上	3 全国からの生徒募集
進捗 状況 ※R7当初	<ul style="list-style-type: none"> ○入学者数 ・努力目標達成：<u>13校中 3校</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ○地元中学校からの進学率 【目標：35.8% (R10)】 ・<u>19.2%</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ○地域みらい留学等を活用した県外からの 入学生 【目標：80人 (R9)】 ・<u>53人</u> (対R4比：31人増)
主な 取組	<ul style="list-style-type: none"> ○学校と市町村等とのコンソーシアム構築 ・<u>13校中11校構築済</u> ⇒ 魅力化と生徒募集の 「アクションプラン」策定・実行 ○高校魅力化コーディネーターの配置 ・<u>8校配置済</u> (9校予定) 	<ul style="list-style-type: none"> ○中高連携の強化 ・地元中学校との合同体育祭、部活の合同 練習 (嶺北、吾北、窪川、西土佐、清水) ・連携会議の発足 (四万十) ○地域と連携した活動の充実 ・地域行事への生徒参加 (高岡、佐川、窪川) 【例】高岡：土佐市大綱まつり、宇佐大鍋まつり 	<ul style="list-style-type: none"> ○地域みらい留学 (R7.6・7月 東京・大阪会場) ・対面フェス999人 (前年比4倍) ○県外からの体験入学等参加組数 (R7.8末) ・<u>122組・277人</u> (R6通年：132組・269人) ○新入試制度「こうちフロンティア募集」の導入 (中山間等先行募集) ・<u>10校が実施</u> ・入試時期は1月中旬 (これまでより早く実施) ・学校が定める作文や面接、プレゼンテーションなどの試験を行い、興味・意欲などを審査

事例紹介（学校の魅力・特色＆地元市町村の支援）

事例①：室戸高等学校

<ジオパーク等資源を活かした探究・交流活動>

- 探究学習において、ジオパークの地質遺産、歴史、地理、産業等を教材として、「ジオパーク学」「室戸学」を設置し、発展的な学習を実施
- 世界中のジオパークとのネットワークを活かした国際交流を積極的に推進
→ 「海外に一番近い高校」をキャッチフレーズに
- オーストラリアの姉妹都市（ポートリンカーン）との国際交流
- 女子硬式野球部の活動
→ 今後、地元企業野球部との連携にも取り組む予定

地元市町村の支援

- 国際交流に係る渡航費用を全額サポート
- 探究活動における市観光ジオパーク推進課（ジオパーク推進協議会）との連携
- 寮費の支援や公設塾の設置による学生支援



事例③：窪川高等学校

<野球部の復活に向けた組織発足・意識醸成>

- 町から「野球を核に魅力化を図りたい」と提案
- 町が生徒居住施設の整備を検討
- 野球部後援会設立準備会発足（R7.9）

事例④：橋原高等学校

<地域資源を活かした学習活動等>

- 神楽保存会と連携した神楽継承活動
- 町による寮整備

事例②：清水高等学校

<21世紀のジョン万次郎へ～未来共創科～>

- 普通科を「未来共創科」に改編
→ 「21世紀のジョン万次郎」をキーワードに、清水の地域をフィールドに探究学習を推進
- 中学校で地域移行した硬式テニスは、高校でも活動できるように連携
(R7テニス部の設置→インターハイ出場)

地元市町村の支援

- フェアハイブン(アメリカ)との交流に対する生徒交通費支援
- 廃校舎を交流施設（学生寮）として再整備
(人口減少対策総合交付金を活用)
- eスポーツなど、新しい活動への支援
- 部活動の地域移行を支援



今後の取組・方向性

- 地域と連携した高等学校の魅力化・特色化の推進
 - ▶ 「地域コンソーシアム」で策定したアクションプランの着実な実行
 - 【拡】高校魅力化コーディネーターの配置拡充
 - 【新】地域でのシンポジウム開催（アンコンシャスバイアスの払拭）
 - 【拡】アクションプランを実行する市町村への補助、「全国初・日本一」となるような斬新なアイデアを地域の民間企業から募集
 - 【拡】各高等学校の魅力化・特色化の推進（施設整備、人的配置等）
- 全国生徒募集の推進
 - ▶ 全国からの生徒募集のさらなる拡大
 - 【新】「こうち留学サミット」の開催
 - 【拡】「地域みらい留学」の参画校の拡大
 - 【拡】「こうち留学フェア」（県独自イベント）の広報活動の充実
 - 【拡】県外中学生が本県高校を訪問する際の交通費補助
 - ▶ 居住環境の整備の協議（市町村営住宅の活用、下宿先の発掘など）

3 多様な学びのニーズに対応した学校・コースの設置の検討

○日本語指導の必要な生徒を対象とした
「多文化共生コース（仮称）」

対象	・日本語指導の必要な生徒
教育課程	・高等学校学習指導要領に基づく学習 ・日本語や日本文化についての学び
支援・連携体制	・知事部局、教員養成大学、外国人を雇用する企業、ボランティア団体、日本語教室等
スケジュール	R7：候補校の選定 (高知市内の1校) R8～R9：検討・準備・周知 R10：コース開設

○特色ある学科等
「まんが・アニメに関するコース」

教育課程	・専門教科「美術」 ・まんが・アニメ制作に関する科目（学校設定科目）の設置
支援・連携体制	・知事部局、関連企業、専門学校等
スケジュール	R7：候補校の選定 (高知市内の1校) R8～R9：検討・準備・周知 R10：コース開設

○全日制・定時制・通信制の3課程併置
「多様な学び方ができる高等学校」

教育課程	・全日制・定時制（昼間）・通信制の3課程間の併修が可能 ・3課程で連携・協働した教育活動の実施
スケジュール	R7：候補校の選定 (県中央部の1校) R8～R10：検討・準備・周知 R11以降：開設

【参考】

福井県立足羽（あすわ）高等学校
多文化共生科 日本語コース

- 日本語指導が必要な生徒を対象
- 教科「日本語」の科目を26単位、
教科「英語」の科目を21単位設置
(全90単位設置)
- 1～2年次は、日本語が十分理解できなくても
比較的学習しやすい科目を学習
(例：数学Ⅰ、体育、芸術など)

支援体制

- 支援員による母語（ポルトガル語）の支援
(日本語が母語でない生徒への支援)
- コミュニケーションセンターによる通訳、翻訳
(授業、保護者への説明など)
- 県が日本語能力検定試験の受験料を補助

【参考】

熊本県立高森高等学校 マンガ学科

- 学校設定科目「マンガ制作」を設置
- マンガ家、編集者による授業
- インターネット環境を整備した実習室
→遠隔でマンガ指導が可能
(東京のマンガ家、編集者等による)

支援体制

4者協定の締結

株式会社コアミックス、高森町、熊本県教育委員会、
高森高等学校

- 株式会社コアミックス
講師派遣、進路の助言、会社施設の利用
- 高森町
インターネット環境整備、機材調達、学生寮の整備

全日制
(単位制・普通科)

※主な授業時間は
1～6時間目を想定

併修可能
転籍可能

併修可能
転籍可能

併修可能
転籍可能

定時制
【昼間】
(単位制・普通科)

※主な授業時間は
3～6時間目を想定

併修可能
転籍可能

併修可能
転籍可能

通信制
【本校】
(単位制・普通科)

※登校日（面接指導の日）は
週2日設定することを想定
(生徒は、週2日のうちいずれか
1日に登校することを想定)

4 通信制のデジタル化と協力校の設置、定時制の再編

■ 通信制のデジタル化

- 添削課題の提出・指導のデジタル化（システムの導入）

▶ R8 から試行

■ 通信制の協力校の設置

- 既存の地域の高校に同居する形での設置を基本

→生徒の自宅から最寄りの地域の高校で

通信制の対面指導を受けることが可能に

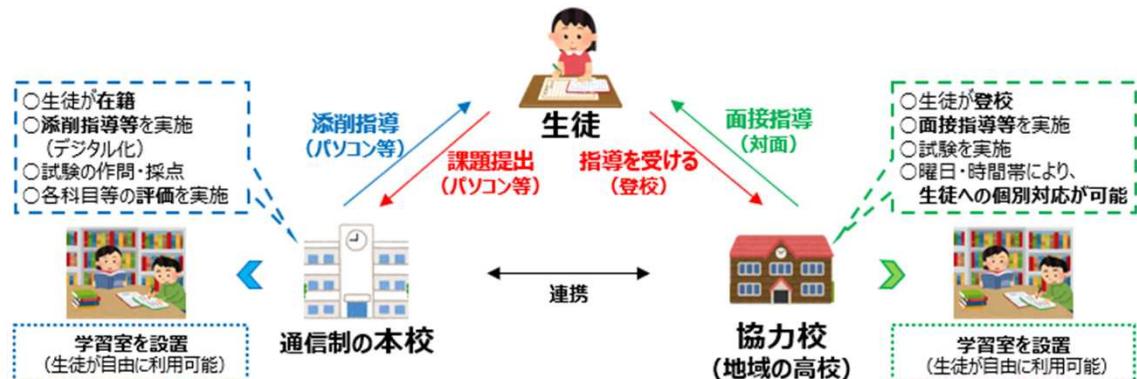
▶ R8 から協力校の研究校でシミュレーション

- R10を目途に、協力校を開設

■ 定時制の再編

- 定時制夜間課程から通信制の協力校への移行も含めた配置の見直し（12校→6校程度）

◆ 通信制の協力校の設置による新たな学び方のイメージ



5 産業系の専門高校の学科改編等

■ 教育内容の見直し、学科改編等

- 産業系専門学科を設置する全ての高校で教育内容の見直し

→先進的な産業に対応するための基盤となる学科を中心に置く学科改編について検討

▶ R9 以降、順次、新学科の設置や新教育課程の開始

6 遠隔教育の拡充

■ 遠隔授業等

- 14校に5つの教科を授業配信

（数学、英語、理科（物理、生物）、情報I、【新】地理歴史（歴史総合、世界史探求））

のべ35講座、週104時間を配信し、生徒178人が受講

- 大学受験対策、公務員試験対策、資格試験等講座、キャリア教育講演会を実施

▶遠隔授業の拡充のための新たな配信拠点の整備

▶R8 から、3Dメタバースを活用した次世代遠隔教育の研究
(学校間の協働学習等)

◆ 地域や学校の枠組みを超えた協働的な学習の充実のイメージ

